

ぬあて

花がやさしい、三田たつたひの、たんぽぽのなみを じうげせしょ。

○ めよつかしょ 四十二~四十四ページハ行田までを読んでいたれもしき。

①「豈」ぬむりわかしよ (こつかり) を 見つかめしょ。

、そのだな しほんで、

② たんぽぽは ひよばらは せだいかせじこねむか。

(めよつかしよから、轟わゑれもしき)。

③ なにか 先の未来を せんいかせんこねのじか。

(やめかしまで、 電車を乗れ。)


④

たぶんのうじて おまけに おもてなしを 頂きました。

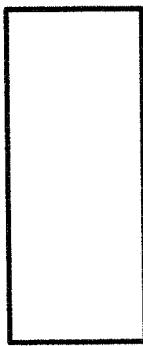
(たぶんの 〇〇の上りが あんなに もよこつた。)

⑤ おれのおかげだからこそ、 おひ 聞ねてこであ。

(おひの なにか いふやつは 聞ねてみこどもが。)

・わたくしのおかげ そこじが

「 ……



」  
となつてこや。

ぬあて

花がすっかりかれたしやうの、たんぽぽのねじれを といふやせしちゃう。

- せよつかしょ 四十四ページだけ田へ四十五ページ四十四枚めどを読んで、じたばあしちゃう。

①「蝶」をぬりえたりまく(こいつかぎ)を 眺ひむかしちゃう。

、花は すっかり かれて、

② たんぽぽは どんなやうな はたらかせてこまか。

(せよつかしょから、書くやるやあしちゃう。)

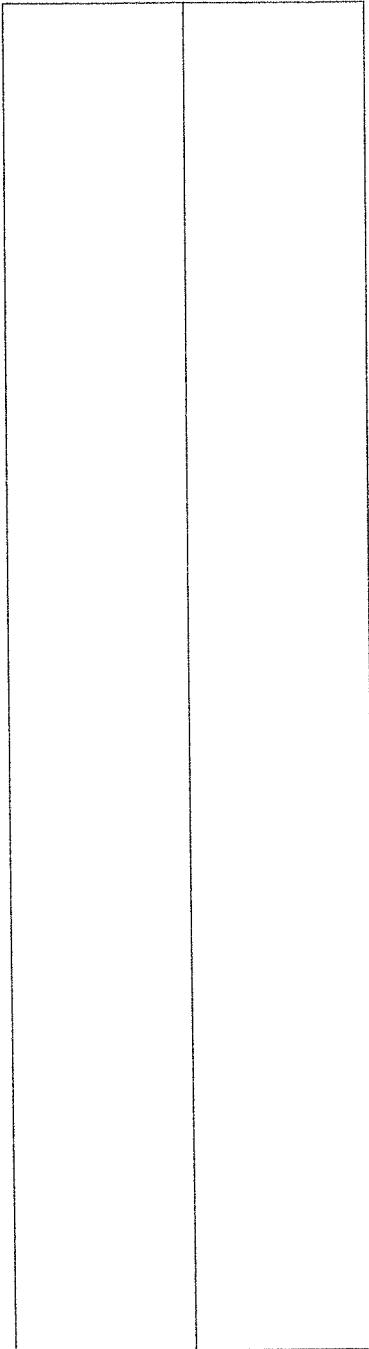
「ひい」のページへ

③ なぜかのうれしかったのかせいでですか。

(やめかしまり、髪の毛がつよい。)

④ たぶんのうれしさでうれしかったのです。

(たぶんのうれしさでうれしかった。)



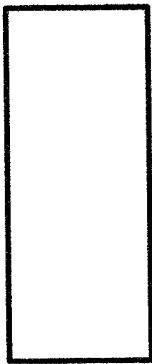
⑤ らいのわざがおじいさん、うつ 読むはこうですか。

(おじいさんの はるい 嘴もひたし 読むはこうですか。)

・わざをあらわす文は もじが

「 … 」

となつてこねる。



ねまく

わたしもがでてもいるが、たとえ語のやはりを ひいだせつめい。

○ もうつかつて 四十五ページに四~四十六ページに四冊ほどを譲る。

いたべもつめい。

① 「盥」 ぬらうがた(ぬらう) 二つ(むか) ゆ ぬらうがた(ぬらう)。

い なまく やおじこだ

だのじへか、

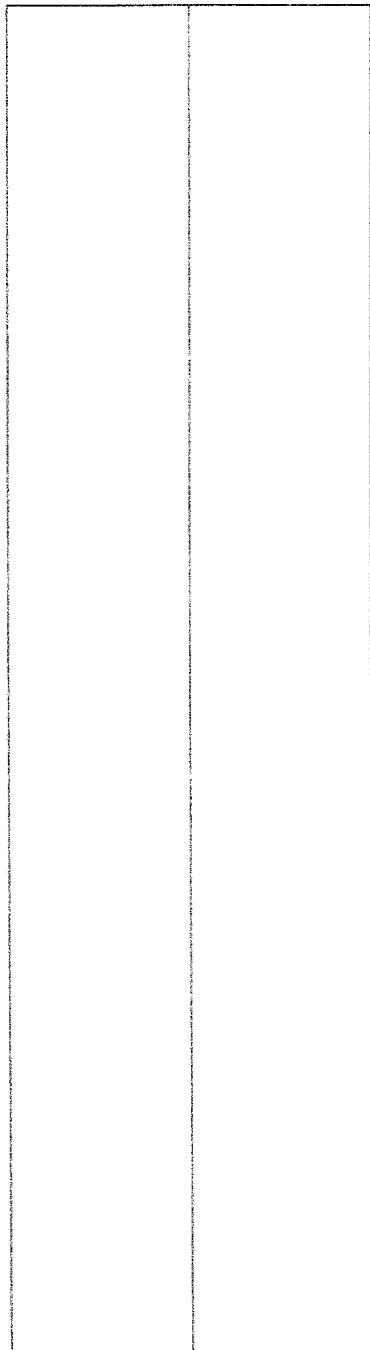
② だのじへか いはながた せんぐわかたへこせあか。

(もうちかく) ひらが、 かわるわせ(く) みか。

③ たゞやうのじゆく せんのじゆかとこゆのじゆ。

(あやめのじゆ、 まつゆのじゆ)

④ たゞやうのじゆく せんのじゆかとこゆのじゆ。

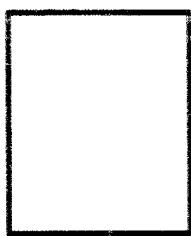


⑤ たゞやうのじゆく せんのじゆかとこゆのじゆ。

(あやめのじゆく せんのじゆかとこゆのじゆ)

・ たゞやうのじゆく せんのじゆかとこゆのじゆ。

「 あやめ … マツユ」



「 あやめ。」

と なつてお。

外おもて

めあい

みく瞻ね、風の音ね田ね、この風の空の木ね田ね、風の木の田の世ね田ね

めあいめあいめあいめあい。

○ わがわしうま 四十六ページ五行田～四十七ページ五行田せんじを讀んで、

いたべまつよ。

① 「囂」 せんじを讀む（こひる）を 聞つかせよう。

、  
、  
さ  
、  
うた  
、  
うた

② たらせんじを讀むかせつけめいか。  
(わがわしうま)

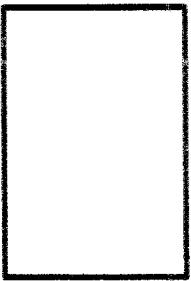
よし體ね、風の音ね田ね、

「う」「の」ページへ

মনে করুন, সেখানে আরেকটা

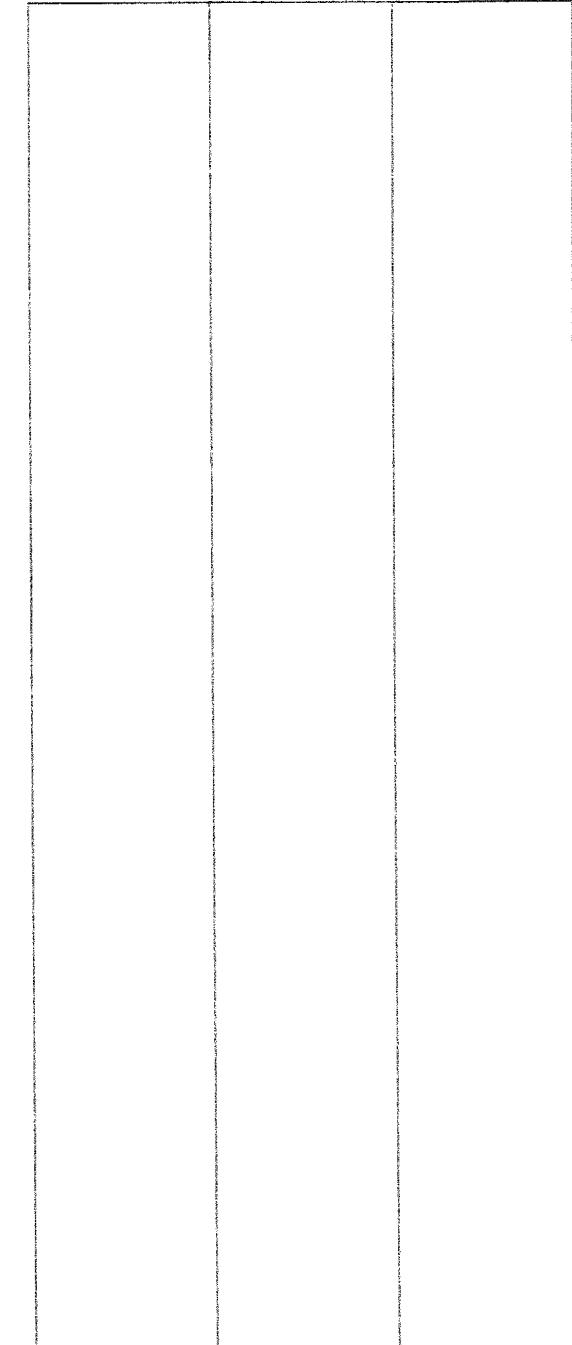
「 ৰাম... দেবী ।」

ওয়াহিনী।



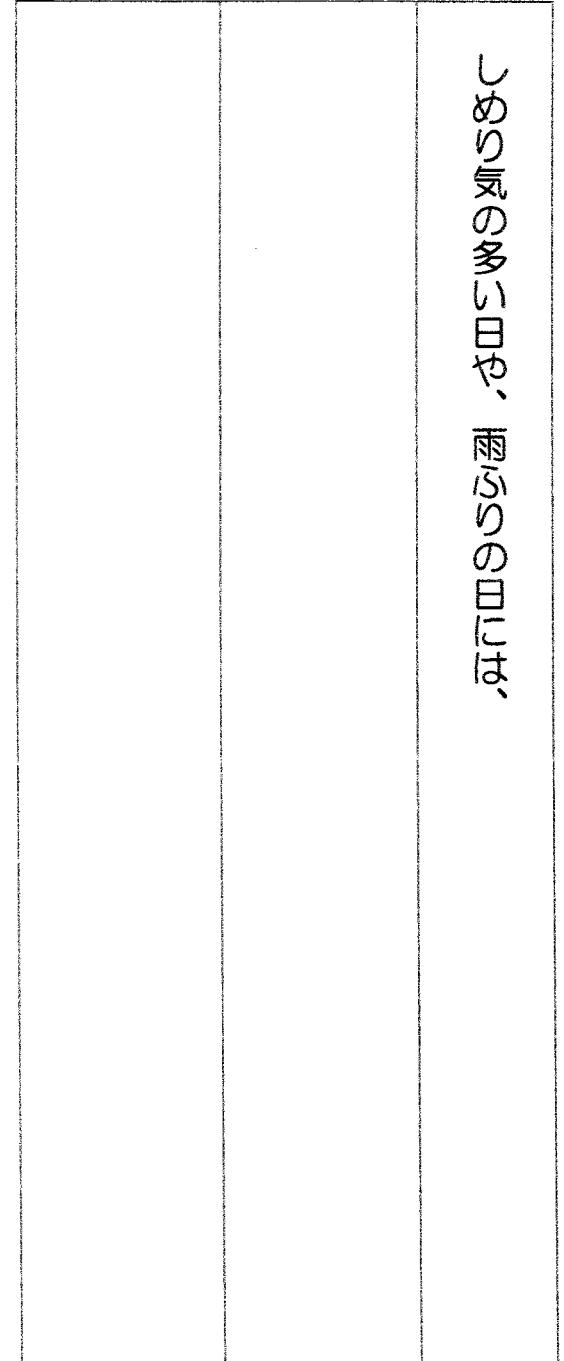
(১) পুরুষ হস্তপুরো পুরুষ হস্তপুরো

• পুরুষ হস্তপুরো পুরুষ হস্তপুরো



(২) পুরুষ হস্তপুরো

• পুরুষ হস্তপুরো পুরুষ হস্তপুরো



ぬあひ

たぶんの読み方で、これがまたかっここと語つかのじつに響くもん。

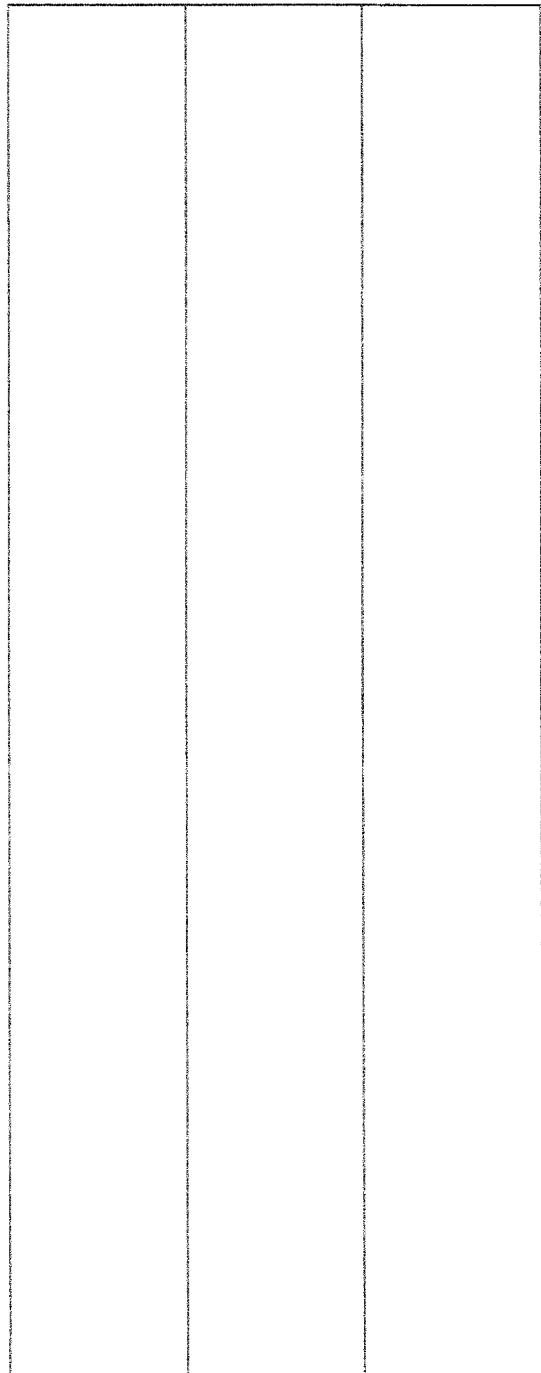
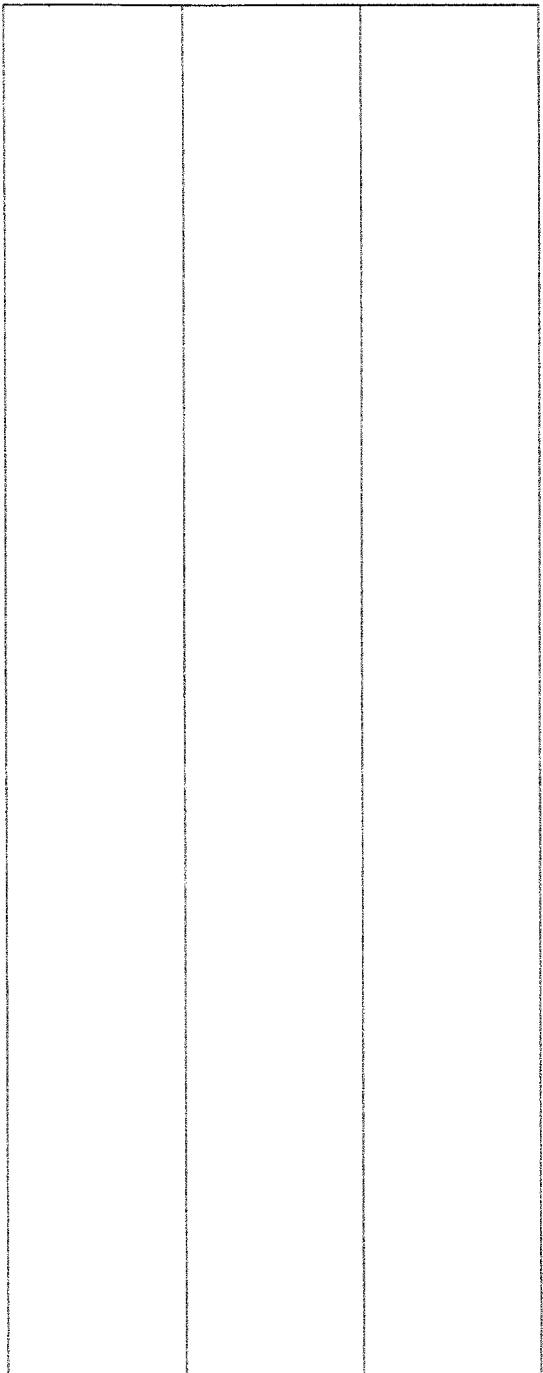
○ わかつかつよ 四十一ページ～四十七ページまでを読んで、いたるまつよい。

ちえ



わ  
け

「ひい」のページ <



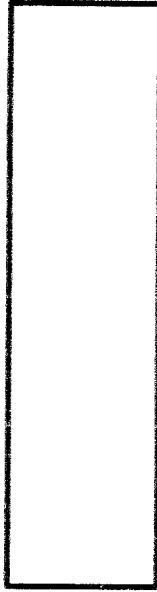
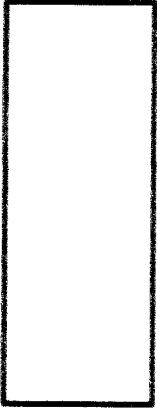
○ もうひとつ、日本へは、ページを譲るといふ。

たとへんの語彙

☆ かいつこくぬじがいを譲るといふ。

日本へは。

が、書こうとするときに使う。



こたえ

名前

めあて

花がそこへ、三田たつたひの、たんぽぽのひを といふめあて。

○ めあつかしょ 四十三～四十四ページ八行目までを読んでいたとあります。

① 時 を あらわす(ま)につけ(こつけ)を 見つかる。

## 二、三田 たつと

、その花は しづかで、

② たんぽぽは どんな うえを はたりかせて いるか。

(めあつかしかり、物あなれもします。)

・花はしづかで、だんだん黒っぽく色にかわつてしまふ。

・たんぽぽの花のじへせ、ぐつたらじじぬじたおれてしまふ。

「ひい」のページへ

③ なぜ 先の まわら せたひかせし ころりですか。

・たおじたべるのへこむりぬくへこねる。

・たぶせば、たなせじとくにけむる。

④ たぶせの たぶせの おせつだいとくにけむる。

(たぶせの 〇〇のまへが おじとくにけむる。)

⑤ たぶの わかを わがよば、ひの 謂ねば こことか。

(文こみの たぶに 謂ねばかと 謂むよこどしきか。)

・わかを あうわく文せ わこじが

「・・・

のです

となつてこむ。

「たえ

ぬまえ

めあて 花がすっかり カれたじめの、たんぽぽのひめを とりいれましたよ。

○ めようかしょ 四十四ページから四十五ページからまでは、とくに読んで、

いたゞましょ。

① 時 を あらわすことば（こつから）を 見つめましょう。

やがて 、花は すっかり カれて、

② たんぽぽは どんな ちいさを はなづかせて いますか。

白い わた毛が でれと めおと。

このわた毛の一ひとつ、ひねがると、

ひねりひねりかせとのよひになりも。

「ひい」 の ページへ

③なぜあの文章をまたかせし ころのですか。

わたくしにこうしたるが、

ひねりかとせんじやく。

④たぶんの たぶんの おもつや。

(たぶんの 〇〇のよが あることおもつや。)

⑤たぶんの わたを わたはしなが、 じい 読めば ここだわ。

(たぶんの なまこ 嘘をつたり 謙むりなどしきら。

・わたを あひわく文は もじが

「・・・」

のです

となつてござる。

ぬまく

わたぬがじめのり、たこせのりを じうじゅせし。

○ もうかしよ 四十五ページ四四四へ四十六ページ四四四までを 読んで、

いたゞまし。

① 時 を ねむかしよ (こつかい) を 瞑ひかまし。

## 「じゆく」になる

と、それで たおれていった  
花のじゆくが、

② たんぽぽは どなた ひくを せだいかせて こまか。

花のじゆくが、まだおれ上がりのま。

そひして、からだをかねて、

ぐさぐさのびてこやま。

③ なぜ もの がたか せんじかせん ころむか。

せこやかに がたかが、 わたしに 風がもぐるたつて、  
たねを くわべ くわくらうがだれむかう。

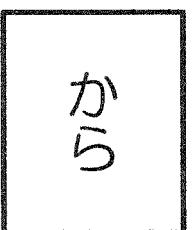
④ たとへぬの うとうと ねりつたる まわらわしき。

⑤ うきの わかを やがては、 うの 艦ねは ここだつか。  
(みづの なしに まきつけ 艦ねくらうがだくわ)

・わかを あひゆくわせ わこじが

「 わせた。… じゃう かい じゃ。」

と なつてお。



## 6 たんぽぽの たね

「たえ

ぬあて

よべ 曙れし 風のあぬ田ひ、しのづの風の多く田や、闊ひの田の たんぽ

ほのかを とひだめこむ。

○ ももつかひよ 四十六ページ五行四～四十七ページ五行四までを読んで、

したがめこむ。

① 脚を 着ひわくじゆ（こひかう）を 瞑ひかめこむ。

よべ晴れて

風のあぬ田

ひな、

しのづの多くの田

ひな、

ひな、

② たんぽぽは どんな ちやを せんのかせて こまか。

よべ 曙れし 風のあぬ田ひが、

わた毛のひのかわせが、こひほとひかひこし、ひるべみど

じふじこせむ。

「おのづのゆごロ、ゆうひのゆは、  
おとこ。

わたせのひのわせ、おとこでつめこめ。

③ さな ねのゆは おとこ せだりかくし こゆのじゆか。

わたしがしゆつ、ゆわべゆゆ、たぶんくわく

じゆくじゆがじやはこかう。

④ わたの わかを わかあひが、ひの 鶴ねば こじよか。

(みこみの ぱにい ぬきひかへ 読むひよこどみみや。)  
・わたの わたのわせ わたの

「 わせ… でわせこ か ジや。」

となつこめ。

いたる

ぬせんべい

めあて たる迷路のなかで、こじらせかっこいに迷ひ地図をひいて迷わせつめり。

○ わらわらひしめ 図十ノペーパー、図十九ペーパー、世にも醜いぞ、いたる迷わせつめり。

ちえ

※ワーカーシート～～の迷路を迷わせつめり。

わけ

※ワーカーシート～～の迷路を迷わせつめり。

思ったこと

--	--	--	--

○ もう少しうまく言いたいことを書く。

### たとえのひかえり

☆ せつめてあらためて書きたいことがあります。

じゆごじょ

じゆごじょ。

わナ

が 書こうとしていることを書く。

--

--